

様々な分野の育成が必要不可欠！

ものづくりのまち構想



議長



議員

地域経済の活性化の取り組みとして、ものづくりの推進を図るためには、各分野の新規参入者の方、あるいは後継者の問題とその育成が必要になってくる。これらの方に対する、例えば講座など今までのように取り組んできたのか尋ねる。

経済環境部長

ものづくり推進を図るための育成講座は、県が実施している現場体験や教室が開催されている。また市内から、かわらぶき、和裁などの県が認定した職人、

ものづくりマイスターを派遣し、実技講習などを行っている。さらに市では、今年度より新たな支援として、創業する際に必要なスキルを身につけてもらうために常総創業塾を開催する。また、農業分野では、新たな農業従事者の育成、確保を目的に新規就農者研修事業を実施し、関係機関と連携を図り、サポートする。

議員

各関係機関との連携を保ちながら進めているという話したが、結果として、成果や参加者、新規就農の具体的な成果はあがっているのか。あるいは体験教室に参加し、その後指導やPRはされているか。

経済環境部長

職場体験などの実績は、27年に3件、それ以前は2件あり、内容は美容、和裁などがある。新規就農では、28年度検討中を含め3人の実績となっている。

議員

様々な施策を進めていると思うが、利用する側に当たつてのPRとして、市にとどまらず、県やNPOでも行っているものも市民のみなさんにぜひとも周知徹底していただきたい。

〇 〇 〇 JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI 〇 〇 〇

想定浸水深表示の是非

「まるごとまちごとハザードマップ」の諸課題について



議長



議員

「まるごとまちごとハザードマップ」の諸課題について、電柱にしろるされた最大水位の根拠となるデータは何か尋ねる。

市長公室長

洪水が発生した場合に想定される浸水の深さの最大値を浸水想定区域内の電柱に表示したもので、28年8月に国土交通省が指定、公表したデータに基づき掲示した。

議員

国交省が発表する千年に一度の想定や国家百年だったり、ピ

ンとこない。この事業に対して非常にいろいろな声が市長に当然届いていると思うし、我々議員にも届いている。これを不安としている市民のみなさんからどういいう声が届いているか。

市長公室長

浸水表示板の設置以降、周辺住民、区長からさまざまな意見があった。防災意識が高まったという意見がある一方で、水を思い出して気分が悪くなるなどの意見が寄せられた。市としては、安全・安心を最優先に市民の生命を守ることが重要と考え、事業実施に至った。

議員

市民のみなさんに周知をして危機意識を醸成するというのが最優先課題と話したが、表記を電柱から外すという事例を聞くが実際に外したのか。

市長公室長

全体で348本設置した中の16本ほど撤去している。

議員

最優先に浸水が想定されるものを用意喚起するという姿勢は良く分かる。しかし、外すということは、市民一人ひとり説得していくというまちぐるみでやることが必要なのではないか。

岡野一男議員

金子晃久議員